
メールにて

逢哉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メールにて

【Nコード】

N4739J

【作者名】

逢哉

【あらすじ】

愛しかった君との最後のメール。

“もう別れよ”

最愛の人に送った、彼女としての最後のメール。

一年間想い続けて、

やっと振り向いて貰えて、好きって言うてくれた彼。

そのうちお互い部活とか勉強で全然会えなくなり、メールの数も減った。

私の方が限界だった。

“そうだね。”

帰ってきたメールは、いつもより質素で余計に辛かった。

やっぱり、もう好きじゃないんだなって思った。私達は、もう会わない。

もう会えない。

私の心がもっと強くて、辛いことから逃げなかったら…なんて考えてしまう。

被害者ぶったって、結局私は臆病者。

そう思いながら、携帯を置いた。

ベッドに寝ながら、今までを思い返した。

“なんで私を好きになったの？”

と、聞いたら事があった。

わがままで、横暴で、頭も悪くて、何もできない私。
優しく、堅実で、努力家だった君。

“…秘密。”

そう言って笑った。

でも、君はきちんと私を愛してくれた。

言葉には出さなかったけど、態度でわかったはずなのに。

今までの、沢山のものが込み上げてきて、初めて泣いた。
泣いた瞬間、逢いたいと思った。

いくら忘れようとしても、体に残る貴方の体温。

重ねた唇の優しさ。

甘い想いが溢れて、愛し合ったあの時間が輝いた。

…ヴーヴー

恐る恐る携帯の受信ボックスを開いたら、予想外の文字。

“友達になろっか”

彼らしい、優しい言葉だった。

でも、反対に彼女でなくなった残酷な言葉。

なんとなく、友達になってみようかなって思って、最後のメールを返した。

(後書き)

『メールにて』を読んいただきました、ありがとうございます。

二作目です。

これからも頑張ります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4739j/>

メールにて

2010年10月28日07時51分発行